

2025年12月 日米軍事情報 新聞記事サマリー

記事タイトル：	対中抑止 離島における軍備増強が持つ意味（原文タイトル：Economic, defense concerns behind military buildup on Japan's remote islands, experts say）（記事日付：12月31日）
サマリー：	<p>日本政府は防衛費をGDP比2%へ増額する方針の下、沖縄から台湾に連なる「南西諸島」への戦力配備を加速させている。これは軍事的圧力を強める中国に対し、日本が自国の経済的権益と国民を断固として守り抜くという明確な戦略的意思表示である。</p> <p>専門家は、台湾侵攻が成功すれば地域の地政学的バランスが根底から覆ると警鐘を鳴らしている。中国がインド太平洋へ自由にアクセス可能になれば、日本のエネルギー補給路や海上交通路（シーレーン）が直接的な脅威にさらされ、経済的生命線を掌握される恐れがある。</p> <p>これを阻止するため、石垣島への「12式地対艦誘導弾」配備に続き、最西端の与那国島には「03式中距離地対空誘導弾」部隊の配置が進められている。これらの「スタンド・オフ能力」の強化は、台湾を足がかりとした尖閣諸島や沖縄本島へのさらなる拡張主義を封じ込める狙いがある。</p> <p>中国は「戦後秩序への挑戦」と反発しているが、米国のシンクタンクなどは、日本の動向を「ルールに基づく国際秩序」を維持するための正当な防衛戦略と評価している。ウクライナ戦争を教訓に、現状変更の試みが失敗に終わることを実力で示すことが、現在の日本の防衛力の核心となる。</p>
出典：	米「星条旗新聞（スター・アンド・ストライプ紙）」 https://www.stripes.com/theaters/asia_pacific/2025-12-31/nansei-japan-defense-taiwan-china-missiles-20255449.html （2月3日閲覧）